

牛舎通路の溝切り施工について ～Mini Groove～

牛のスリップ事故を減らすため、牛舎通路には「溝切り」がなされますが、経年化などで溝が摩耗した場合、溝の再施工が必要になります。溝切りデザインの一つである「Mini Groove」の現場事例が散見されるため、現場で導入する際の期待できる点と気をつける点をまとめました。

※Mini Grooveは非常に細かい縦溝が特徴です



●期待できる点

- 転倒、股裂きによる廃用の減少・防止
- 蹄病（白帯病など）の減少
- 歩様安定による発情発見率の向上



●気をつける点



○施工直後は蹄の摩耗が大きいので注意が必要です

①施工直前の削蹄は避け、**削蹄と削蹄の合間に施工**するよう調整しましょう

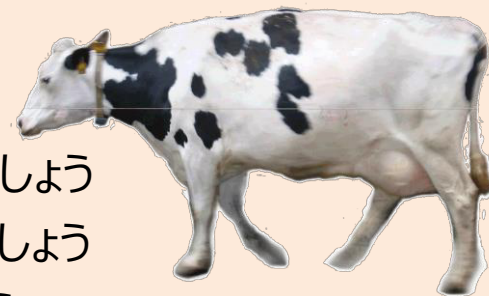
②蹄病やローヒールなど、現在の状況を**獣医師や削蹄師などと確認**しましょう

③分娩前後など、**角質の変化しやすい時期の牛は歩様を確認**しましょう

④粗飼料品質の不良発酵や**採食量が不安定な時は施工後の状態変化に注意**しましょう

○施工時はコンクリートカスが出るため、スラリータンクなどの、**目詰まりを起こす可能性のある機械への混入は避けましょう**

○自動エサ寄せ機の通路盤など、**施工により故障が懸念される場合は、メーカーなどに確認**しましょう



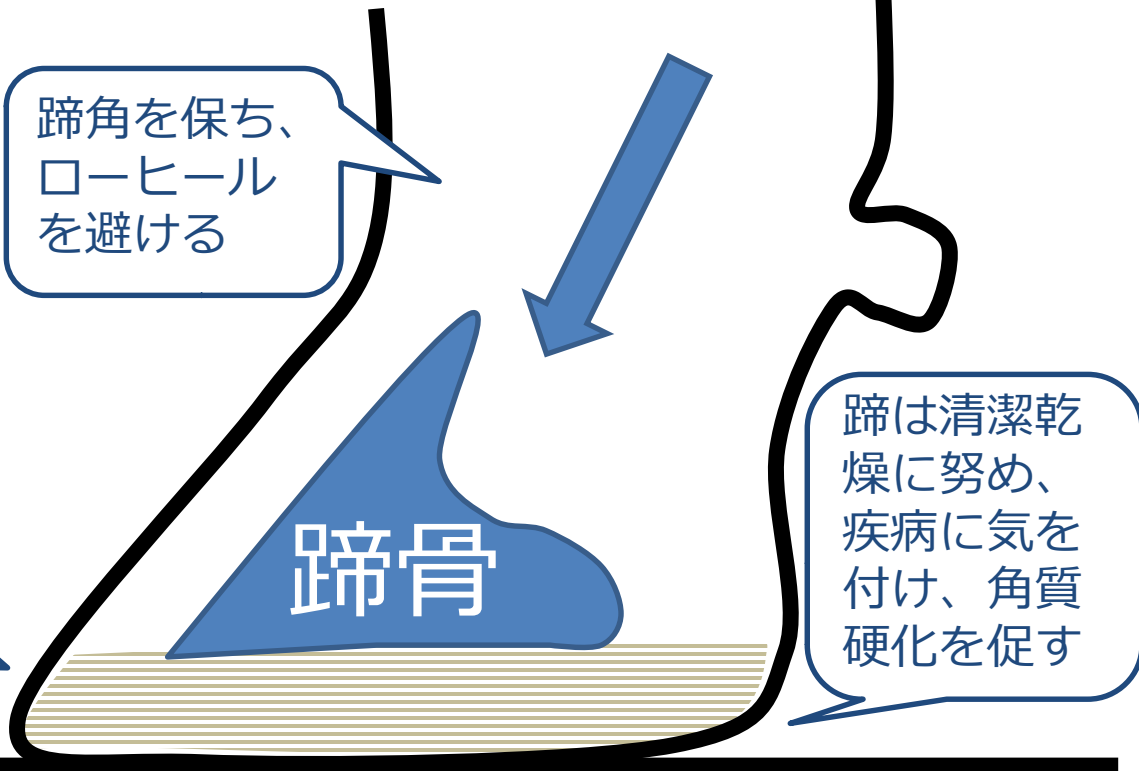
施工後、摩耗による病気が増えないように注意しましょう！



施工前に蹄を
チェック！

蹄角を保ち、
ローヒール
を避ける

蹄底は一定の厚みとし、
シンソールを避ける



蹄骨

蹄は清潔乾
燥に努め、
疾病に気を
付け、角質
硬化を促す

○施工前の蹄は健全にしましょう！

- ・蹄の角度が低すぎないように（ローヒールとにならないよう）、角度をキープしましょう！蹄底の厚みも一定を保ちましょう
- ・角質硬化を保つため、蹄の清潔乾燥に努めましょう
- ・ルーメンアシドーシスなどにも十分注意しましょう